



先進地視察



勝田駅東口再開発事業が完成

～ひたちなか市～

ひたちなか市 都市整備部 都市計画課

■背景

ひたちなか市の中心市街地に位置する勝田駅は、J R 常磐線の特急がすべて停車する主要な駅で、一日当たりの乗降客は2万4千人を超え、本市の人と経済の流れの中心になっております。勝田駅東口地区は、国際港湾公園都市づくりを進めているひたちなか地区へのゲートウェイ(玄関口)として国内外から多くの人立ち寄る地区であるとともに、人口約15万7千人を擁する本市にふさわしい風格と発展を感じられる個性的な顔づくりが求められていました。

また、交通広場は、通勤通学の時間帯に多くの送迎車両が集中し、交通混雑が常態化しておりました。さらに駅周辺では狭隘な道路の両側に、住宅、店舗、事務所等が混在するとともに老朽化した低層建築物が集積しているなど、防災上の問題も抱えておりました。

このため、平成6年に決定した都市計画の内容を時代の趨勢や財政事情を踏まえた適正な規模に見直しを行い、平成19年4月から勝田駅東口地区第一種市街地再開発事業としてスタートしました。

■整備概要

勝田駅東口地区の施設配置は地区面積約1.5haのうち、交通結節点の機能強化を図る交通広場を9,500㎡に拡張し、市玄関口の顔にふさわしい施設建築物の面積を約2,900㎡に、新たな都市空間を創出する公益施設や幹線道路等約2,600㎡を計画的に配置しております。

また、実施にあたりましては、全国で初めての取り組みとして、独立行政法人都市再生機構と人的支援を含む業務委託契約を締結することにより事業を着実に進めるとともに、施設建築物の建築及び保留床処分を一括して民間事業者に担わせることで、効率的かつ安定的に整備を図ることができました。勝田駅東口地区第一種市街地再開発事業はスタートしてからわずか5年後の平成24年6月に竣工を迎えました。

駅前広場では円滑な交通処理が可能となり、バリアフリーに配慮したゆとりある歩行空間と開放的にぎわいが創出できる広場に加え、まちなか居住にふさわしい住宅棟と並んで宿泊(ホテル)棟が建築されました。



送迎車で混雑する駅前広場



完成した東口駅前広場

■憩いの広場の利用状況

憩いの広場では、休息や待ち合わせなどのほか、フリーマーケットや各種イベントが開催され、市民交流ができる開放的な広場として利用されています。



昨年6月に男女の出会いの会場として「勝CONIN縁起のいいまちひたちなか」が開催されました。当日は広場に約1000名の男女が集まり、開催宣言後に駅周辺の飲食店へ流れ、まち中は若者で賑わいました。



■勝田駅東口周辺地域の整備

駅周辺を中心に活気あふれる賑わいづくりや商店街の活性化を促すため、住まいに必要な機能を集積し、歩いて暮らせる集約型のまちづくりを平成20年度から都市再生整備計画に基づき、事業に取り組んでまいりました。まちづくりの目標は次のとおりです。

- 目標1 市の玄関口にふさわしい賑わいの創出と快適な空間の形成
- 目標2 住み、働き、遊び、憩うことができる多様な都市機能が配置された風格ある地区の形成
- 目標3 誰もが安全に利用できる道路や公園を整備し、緑豊かな美しい街並みの形成

◆リニューアルされたひたちなか総合病院

株式会社日立製作所創立100周年記念事業として、ひたちなか総合病院は平成22年6月にリニューアルしました。ひたちなか総合病院はまちづくりの中核を担うとともに、救急医療など様々な医療機能を備え、多くの市民が利用しております。市は病院建替に対し、施設のバリアフリー化に向けた支援等を行いました。



◆健康いきいきロード

ひたちなか総合病院、運動ひろば、公園及び健康増進施設などを有機的に結ぶ健康いきいきロードは、安心して歩きやすい広幅員の歩道として整備しました。全体延長700mの中には、健康をサポートするための遊具等やシンボリックな樹木を配置するなど、健康増進を兼ね備えた歩道として、市民に利用されています。



■事業の効果

これまで取り組んできた事業が5年を経過し、勝田駅を中心とする区域は明らかな効果が出始めております。再開発事業による交通広場や憩いの広場が大きく拡張されたことで、勝田駅を利用している市民のうち、約8割の方が満足であると、事後評価で行ったアンケート調査で得られました。また、医療の充実、回遊性の確保、居住環境の整備と集合住宅の立地及び公共交通との連携など、官民一体となったまちづくりを進めることで、交流人口や居住人口の増加が図られるとともに賑わいも創出してきております。さらに、今後も引き続き、勝田駅周辺に隣接する地域を含め、都市の魅力を高めてまいりたいと考えております。